

「自立活動の指導における実態把握から具体的な指導内容を設定するまで」

1. 実態把握に必要な情報を収集する（中学校からの情報の引継ぎも活用する）

※ポイント 「教育的立場、心理学的立場、医学的立場などの様々な視点」
 「生徒の育ちに関わる人や機関などの複数の関係者の情報」

(例)

- | | | |
|------------------|-------------------------|-----------------|
| ・障害等の有無や状態 | ・生育歴 | ・生徒の得意な部分や長所やよさ |
| ・特別な施設設備や補助具の必要性 | ・基本的な生活習慣 | ・学力や学習上の配慮事項 |
| ・知的発達や身体発育の状態 | ・家庭や地域の状況や環境 | ・興味、関心 |
| ・対人関係 | ・行動上の特徴 | ・生活経験等の経験の程度 |
| ・コミュニケーション能力 | ・困難にうまく対応できた状況やできなかった状況 | ・進路 など |

2. 収集した情報を整理する

(例1) 自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 生活のリズムや生活習慣 病気や身体各部の状態の理解 障害の特性の理解 生活管理や環境の調整 など 	<ul style="list-style-type: none"> 情緒の安定 状況の理解 状況の変化への対応 困難を改善したり、克服したりする意欲 など 	<ul style="list-style-type: none"> 他者とのかかわり 他者の意図や感情の理解 自己の行動の特性の理解 行動の調整 集団への参加 など 	<ul style="list-style-type: none"> 保有する感覚の程度 感覚や認知に関する特性の理解 感覚や認知に関する特性への対応 感覚の補助や代行手段の活用 周囲の状況の把握 周囲の状況に応じた行動 概念の形成 など 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢、運動、動作 身体の動きに関する補助手段の活用 日常生活動作 移動 作業における動作や遂行の状況 など 	<ul style="list-style-type: none"> 意思や感情の伝達と受容 言語の受容や表出 言語の形成や活用 コミュニケーション手段の選択と活用 状況に応じたコミュニケーション など

(例2) 学習上又は生活上の困難に即して整理

※ポイント 「具体的な姿」、「現在の困難と過去の困難」

(例)

- ・生徒が実感している学習上や生活上の難しさ（「これがやりたいけど、うまくいかない」）。
- ・家族や身近に生活をしている人が本人に対して感じていること（「これができるようになるといい」）。
- ・過去の学習によって習得が難しかったこと。
- ・全く〇〇についてできないわけではないが、成功することが少ないこと。

(例3) 卒業後を含む将来の姿の視点から

※ポイント 「卒業後や将来、なりたい自分の姿」、「進路を見据えた育てたい力」

(例)

- ・生徒や保護者が「今はできないけど、できるようになりたい（できるようになる必要がある）」と思うこと。
- ・家族や身近に生活をしている人が、生徒に対して「今はいいけど、将来は不安だ」と感じていること。
- ・卒業後、生徒の「活動の場」及び「生活の場」を想定し、そこで必要とされること。

3. 2で整理した情報から課題を抽出する

- ・2に記した実態から、指導開始時点で指導が必要と考えられる課題を抽出する（複数の場合もあり得る）。

「自立活動の指導における実態把握から具体的な指導内容を設定するまで」

4. 3で整理した複数の課題がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す

※ポイント 「一番、影響がありそうな課題」、「本人の意欲を生み出す課題」

- ・ 3で抽出した課題の一つ一つが、生徒の中で、どのように影響し合ったり関連付いたりしていると考えられるかを検討する。
- ・ 情報を収束する技法を用い、図にするなどして視覚化する方法も効果的である。
- ・ 中心的な課題は、他の課題と多く関連していたり、複数の課題の原因となっていたりすることが多い。その中心的な課題が解決されることで他の課題にもプラスの影響があると想定される。
- ・ 短期的な課題だけでなく、将来を見据えた長期的な課題の選定も必要になる場合がある。
- ・ これまでの学習状況や将来の可能性、本人・保護者の願いなども考慮に入れることも考える。

5. 4の中心的な課題に基づき、指導目標を設定する

※ポイント 「社会に出るまでの年数」、「周囲からの配慮が受けられる可能性の検討」

- ・ 中心的な課題を整理する中で、今、優先すべき指導目標を選定する。
- ・ 4で述べた指導の方向性に基づき、「何を」「どのくらい」目指すのかを明らかにする。
- ・ 達成することを想定した記載になっているか。
- ・ 目標を設定した人以外でも評価ができる目標となっているか。
- ・ 短期的な目標だけでなく、将来を見据えた長期的な目標の検討も必要になる場合がある。

6. 自立活動の項目を選定し、項目間を関連付ける

- ・ 指導目標を達成するために必要な自立活動の項目を選定し、項目間を関連付ける。
- ・ 中心的な課題同士の関連や整理を参考に、自立活動の項目同士を関連付ける。

7. 選定した自立活動の項目を関連付けて具体的な指導内容を設定する

- ・ どのような力を育てるために設定したのかの整理。
- ・ 興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的にとらえることができる指導内容の設定。
- ・ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができる指導内容の重点化。
- ・ 発達の遅れている側面を補うために、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容の設定。
- ・ 自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができる指導内容の計画的な設定。
- ・ 自己選択・自己決定する機会の設定。
- ・ 自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し取り組めるような指導内容を設定。

8. 実施した自立活動の指導内容の評価とPDCAサイクルによる1～8までの見直し

- ・ 学習の状況や結果を適切に評価し、個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かす。
- ・ 進学先等でも生かされるように、個別の教育支援計画等を活用して関係機関等との連携を図る。

【参考資料】

「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」
「教育支援資料」
「季刊特別支援教育 59号特集」